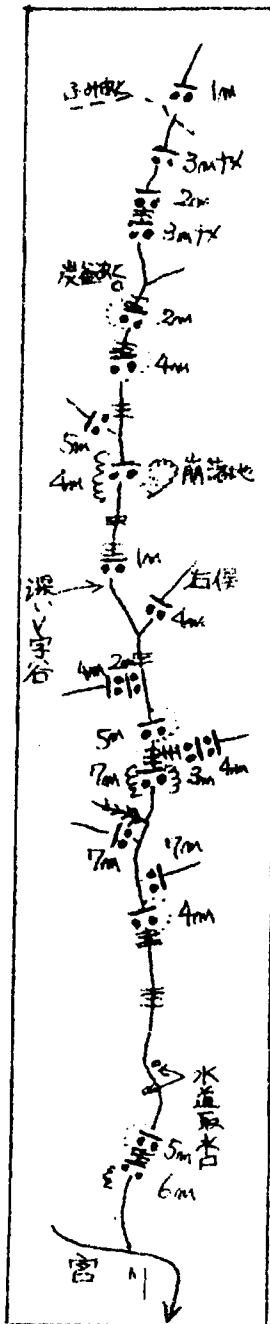


1個があっただけで、10:25北沢本流着。カの沢の下降終了。(記

【タイム】 カの沢下降開始(9:30)→下降終了(10:25)



## 宮川支流四ノ沢

1988年9月17日

北沢支流口の沢(仮称)の遡行終了後尾根上の踏跡をたどり、五来山が近くになるあたりで沢に下る踏跡を見つけ、それをたどって宮川支流四ノ沢(仮称)の源頭に出る。下降開始11:25。

小滝をまじえた細い流れが続く。花崗岩の岩床であるから、滝も期待できそうだ。やがて右岸に炭焼釜の跡を見る。こんな山奥まで炭焼きに通ってきていたのだろう。釜までの踏跡は残っていないので、沢ぞいに通ったのか、それとも尾根筋から下ってきたのか、見当もつかない。

炭焼釜跡を過ぎると、すぐ2mの滝。ホールドがないので、右岸を捲いて下る。いよいよ滝が出てきた。続く4mは左岸を捲いて下る。登ることならできそう。右岸から支沢が合流したあとの4mはクライミングダウン。そのあと沢筋は深いV字谷の様相を呈するようになる。

11:50二俣。下降してきた左俣の方が水量がやや多いが、左俣もすぐ奥に4mの滝をかけ、遡ってみたいという気を起こさせる。後日の宿題にして先に進む。

5mの滝の左岸を捲いて下ったあと、出てきたのがこの沢最大の滝、7m。若干ナメ状。途中までクライミングダウン(かなり微妙なフリクションのきかせ方が必要)してみたが、最後の2m程が下れない。右岸にトラバースぎみに逃げ、倒木に取り付いて下った。登ることはできそう。捲いて下るならかなりの高捲きになる。

このあと沢筋は土砂が堆積して、河原状を呈してきた。倒木が目立ってくる。どうしたのかと思ったら、倒木が集積して自然の砂防ダムを形作っていたのである。そのあと

の4m滝は、左岸を捲いて下る。ここは、ホールドに乏しく、登るのもちよっときつい。

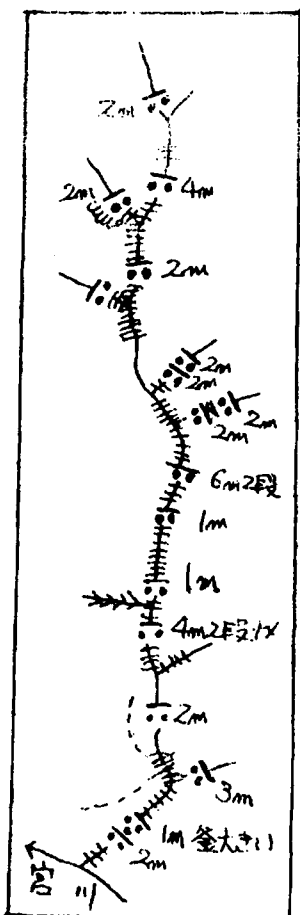
ここまできたら、沢筋が平坦となってきた。そして水道の取水口につく。いよいよこれで終わりかと思っていたら、また滝が出てくる。5mと6mの滝が連続。上の5mは、右岸を捲いて下る。登ることならできそうな滝である。下の6mは、右岸をクライミングダウンするが、最後の方は岩がモロく、参った。あとは深いV字谷となった沢筋を下って、12:30宮川本流に出る。 (記)

[タイム] 四ノ沢下降開始(11:25)→右俣出合(11:50)→下降終了(12:10)

### 宮川支流六ノ沢

1988年9月17日

南沢支流ハの沢(仮称)の遡行終了後、尾根を越えて六ノ沢(仮称)の下降に入る。



急斜面を下ると、細い流れが出てきたが、沢の規模は小さい。やがて4mの滝。左岸をクライミングダウン。ホールドが細かい。このあとはしばらくナメがつづく。そして6m2段の滝。ナメ状であるが、すべりやすいので、慎重にクライミングダウンする。この沢は、規模こそ小さいが、ナメが豊富で、適当に小滝が出てくる沢のようである。

ナメがいったん途切れると、もう宮川本流も近い。やがて落差は1m程度だが、大きな釜をもつ滝に出る。左岸をクライミングダウンし、そのままトラバースぎみに釜をへつる。続く2m滝の右岸をクライミングダウンすると、宮川本流。25分で下降を終えることができた。

(記)

[タイム] 六ノ沢下降開始(8:20)→終了(8:45)

### 大久保沢左俣，右俣

1988年10月9日

八溝山南面の沢は、概して平凡なようである。この大